

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】令和1年10月10日(2019.10.10)

【公開番号】特開2019-143096(P2019-143096A)

【公開日】令和1年8月29日(2019.8.29)

【年通号数】公開・登録公報2019-035

【出願番号】特願2018-30990(P2018-30990)

【国際特許分類】

C 08 G	18/40	(2006.01)
C 08 G	18/48	(2006.01)
C 08 G	18/42	(2006.01)
C 08 G	18/32	(2006.01)
C 08 G	18/66	(2006.01)
C 08 G	18/72	(2006.01)
C 08 G	18/12	(2006.01)
C 08 G	18/00	(2006.01)
C 08 G	101/00	(2006.01)

【F I】

C 08 G	18/40	0 1 8
C 08 G	18/48	
C 08 G	18/42	0 6 9
C 08 G	18/32	0 0 3
C 08 G	18/66	0 0 7
C 08 G	18/72	0 4 0
C 08 G	18/12	
C 08 G	18/00	C
C 08 G	101:00	

【手続補正書】

【提出日】令和1年8月1日(2019.8.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

水系ウレタンポリマーを含む、ポリウレタン多孔質体であって、  
前記水系ウレタンポリマーは、  
ポリエーテルポリオールおよびポリカプロラクトンポリオールを含むポリオール化合物  
(A)と、  
ポリイソシアネート化合物(B)と、  
イソシアネート基と反応性を有する親水性化合物(C)と、  
分子中にヒドロキシル基を2個以上有する短鎖ジオール化合物(D)と、を含む成分の  
反応物であり、

前記ポリオール化合物(A)、前記ポリイソシアネート化合物(B)、前記親水性化合物(C)および前記短鎖ジオール化合物(D)の総量に対する前記ポリエーテルポリオールおよび前記ポリカプロラクトンポリオールの含有量は、50質量%以上60質量%以下である、ポリウレタン多孔質体。

**【請求項 2】**

前記イソシアネート基と反応性を有する前記親水性化合物（C）は、分子中にヒドロキシル基を2個以上有するポリヒドロキシ化合物を含む、請求項1に記載のポリウレタン多孔質体。

**【請求項 3】**

前記ポリイソシアネート化合物（B）は、芳香族ポリイソシアネートおよび脂肪族ポリイソシアネートを含む、請求項1または請求項2に記載のポリウレタン多孔質体。

**【請求項 4】**

前記ポリオール化合物（A）、前記ポリイソシアネート化合物（B）、前記親水性化合物（C）および前記短鎖ジオール化合物（D）の総量に対する前記芳香族ポリイソシアネートの含有量が、8質量%以上17質量%以下である、請求項3に記載のポリウレタン多孔質体。

**【請求項 5】**

前記ポリエーテルポリオールの配合量と、前記ポリカプロラクトンポリオールの配合量との質量比（ポリエーテルポリオール／ポリカプロラクトンポリオール）が、1以上4以下である、請求項1～請求項4のいずれか1項に記載のポリウレタン多孔質体。

**【請求項 6】**

ポリエーテルポリオールおよびポリカプロラクトンポリオールを含むポリオール化合物と、ポリイソシアネート化合物と、イソシアネート基と反応性を有する親水性化合物と、分子中にヒドロキシル基を2個以上有する短鎖ジオール化合物とを含む原料を準備する工程と、

前記ポリオール化合物と、前記ポリイソシアネート化合物と、前記イソシアネート基と反応性を有する前記親水性化合物と、前記分子中にヒドロキシル基を2個以上有する前記短鎖ジオール化合物と、を反応させてウレタンプレポリマーを形成する工程と、

前記ウレタンプレポリマー、水および界面活性剤を併せて攪拌し、前記ウレタンプレポリマーを水中に分散させてO/W（Oil In Water）型エマルションを形成し、さらに水溶性高分子を添加して、水と、前記O/W型エマルションと、前記水溶性高分子とを含むウレタンプレポリマー水分散体を形成する工程と、

前記ウレタンプレポリマー水分散体にアミン化合物を添加し、架橋反応させて、水系ウレタンポリマーを形成する工程と、

前記水系ウレタンポリマーから水分を除去する工程と、を備える、ポリウレタン多孔質体の製造方法。